

【草花の部屋】

カスミソウ (ナデシコ科カスミソウ属 *Gypsophila elegans*)

和名：カスミソウ(霞草)、ムレナデシコ(群撫子) **別名**：ジプソフィラ

英名：Baby's breath、*Gypsophila*

ナデシコ目 一年草

原産地：イラン北部

花言葉：清らかな心、無邪気、親切、夢心地、幸福、感謝

花色：白、桃



← 写真-1 カスミソウ(白)

撮影日：2020年05月09日

撮影場所：大和郡山市郊外にて

撮影者：M さん

↘ 写真-2 カスミソウ(桃)

撮影日：2020年05月09日

撮影場所：大和郡山市郊外にて

撮影者：M さん

↓ 写真-3 カスミソウ(桃)

撮影日：2020年05月09日

撮影場所：大和郡山市郊外にて

撮影者：M さん



→ 写真-4 カスミソウの花(桃)

撮影日：2020年05月09日

撮影場所：大和郡山市郊外にて

撮影者：M さん



自宅近くの家庭菜園の一隅で栽培されていました。見かけた記憶に無い花なので、菜園の方に、この花の名前は？と質問したところ、「カスミソウです」との返事でした。白花種はよく見かけますが、淡い赤色種は、少なくとも、記憶にはありませんでした。小生にとっては、白い花のイメージが強い花です。同じ場所に、白花種も咲いていましたが、圧倒されていました。

カスミソウは、細い茎を無数にのぼし、小さな花をたくさん咲かせる植物で、清楚な花の姿は、他の花との相性も良いため、ガーデニングでもフラワーアレンジメントでも親しまれています。

カスミソウには、一年草のエレガンス種の他に矮性のムラリス種(*G. muralis*)、多年草のパニクラータ種(宿根カスミソウ)やオノエマンテマ(*G. cerastioides*)が多く流通しているそうです。

一年草のカスミソウは、花が小さく、ひと重の花や薄い桃色の花もあります。そして花壇や寄せ植えなどで親しまれ、もっともポピュラーなのは“エレガンス種”で、ガーデニングではこちらの栽培が主流だそうです。高温多湿に弱いカスミソウの中では、暖かい場所でも育てやすい特徴があり、カスミソウを栽培するなら、最初はエレガンス種を選ぶのがお薦めだそうです。日本へは大正期に伝えられたそうです。

カスミソウは高温多湿を嫌い、移植を嫌う特性を持っています。また、花のイメージからは想像しにくい独特な匂いがあるので、他の花と一緒に植えたり、切り花として利用する場合は、匂いに配慮が必要だそうです。多くの植物は肥料を必要としますが、カスミソウは肥料なしでも花を咲かせてくれる植物だそうです。

カスミソウの由来は細かく枝分かれした茎の先に、多くの白い花をつける様子が、霧のように見えることから来ています